

令和7年度 長野県農業大学校評価 評価表

1 学校教育目標

評価 A:目標を上回った B:ほぼ目標どおりできた C:目標を下回った

内 容	R7評価
理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化、経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、自ら目標やテーマを定めて行う模擬経営・プロジェクト学習並びに寮生活等により他者との協調、自己の確立等の社会性を涵養し、次代の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	B

2 重点目標

内 容	R7評価
学生の学習意欲の向上に向けて授業内容の充実・改善及び職員の教育力の向上を図るとともに、関係機関等と連携して学生の希望に応じたきめ細かな進路指導により就農率向上に努める。	B

3 当該年度の評価項目等

(1) 共通項目(総合農学科、実科・研究科)

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R7評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
授業実習 内容の充 実を図る	学習指導	授業改善に向けた取り組み ○ 引き続き学科目の変更や資格取得にかかる授業の分散により授業時間に余裕を持てたか。また、新たな学科目の導入(有機農業や地域づくりなど)について検討できたか。 ○ 学生が興味や関心を持ちわかりやすい授業を行うための、職員の教育力向上研修を計画的に設けることができたか。 ○ 国、県が開催する研修会に参加することができたか。その研修内容を共有することができたか。 ○ わかりやすい授業を行うため、ねらい、展開、見とどけの観点で授業を行うとともに実物やパワーポイント等を用いたか。 ○ 中間テスト等による学生の理解度の把握や学生への授業アンケートの実施(2回)と、結果を踏まえた授業の改善ができたか。 ○ 実習について、開始時に作業の目的や内容を十分に説明し理解させたか。 ○ 学生の授業、進路、寮生活などに関する要望を面談などを密にして随時把握し、学習内容や進路指導の参考としたか。	○ 冬期に行っていた小型クレーン資格取得に係る授業を夏場に行うなど、見直しを進めた。 ○ のうだい屋を5回から4回に減らすなど、負担軽減を図った。 ○ 新たな授業として取組んだ有機農業では、学生の理解が進んだ。 ● 一時的に行事が集中し過密になる。 ○ 魅力的な授業づくりと特性への合理的配慮等職員研修を5回実施、国研修に2名派遣し内容の共有を図り、教員の資質向上を図った。 ● さらに資質向上が必要。 ○ 授業アンケートはFormsを活用し学生の回答や集計の効率的を図るとともに、前・後期末の2回実施して、結果を職員にフィードバックした。 ● 学校の教育方針と現状の授業の状況を把握し、目指す方向となるよう学科目の見直しが必要。 ○ 実習では、目的、内容を説明して学生の理解を得て行っている。 ○ 全学生と進路相談を実施、希望に応じて個別相談や模擬面接を実施。 ● 進路が決まらない学生へのフォローが課題に感じられた。	■ 行事は可能な限り分散化を図る。 ■ 魅力ある授業づくりのため専門家による研修会を引き続予定。 ■ 現在の学科目について検証を行い、見直しをかけるとともに、新たな学科目の導入を検討する。 ■ コミュニケーションを密にとり学生の資質も尊重した支援を心掛ける。	B
		新しい知識・技術への対応 ○ スマート農業に関する講義の充実と関連企業との連携強化できたか。 ○ 「施設園芸ほ場モニタリングシステム」やタブレット端末等を活用した実践的なプロジェクト研究の支援ができたか。また、スマート農業に対応した機械・施設が導入できたか。 ○ みどりの食料戦略に関する講義、学生チャレンジへの参加が実施できたか。 ○ 青年農業者、先進的農業経営体への視察研修や講義の拡充が図れたか。 ○ GAPや農場HACCPなど新しい国際規格の知識習得や、SDGsやエコマネジメントなどの農場経営における実践について講義、演習を実施したか。 ○ 「長野県農業を担う人材の教育支援協定」を活用した講義を行うとともに、県内農機メーカーとの連携を検討できたか。 ○ 関係試験場の開発した新技術や新品種について、現物を踏まえた適期での講義・実習が実施できたか。 ○ 農業機械の整備に関する授業が実施できたか。	○ スマート農業について、講義の充実のため関連企業4社の協力を得て現地での講義を開催した。 ● 多くの機種が普及途上で、実演内容がパターン化した。 ○ R7年度、環境制御型ハウスを設置した(花き専攻)。 ● 学生の能力アップのための効果的な利用が課題である。 ○ 有機農業の授業でみどり戦略の講義を実施した。レポートを見ると学生の理解が深まっている。 ● 学生チャレンジの参加ができなかった。 ○ 実践、農経のハウスのみどりクラウドシステムを設置し、ハウス内環境をモニタリングし、栽培管理に活かすことができた。 ● 測定機器と連動した自動制御ができない。 ○ 県内の先進的経営体視察を行い、講義を充実させた。 ○ GAPについては2年生野菜専攻が中心となってナガイモでGGAP認定、1年生は講義を実施した。 ○ 農業試験場が開発した技術、品種に関する講義、実習を行うことができた。また、生産振興研修会等で販売状況等に関する情報など収集。 ○ 農経1年生は農業機械Ⅱで機械整備に関する授業を行い、実践1年生も農業機械の安全使用について実習等授業を行った。	■ スマート農業に必要な機械や施設を計画的に導入し、授業への活用を検討していく ■ 環境制御技術にノウハウを持つデジタルハリウッド(株)へ同型ハウスの活用について相談 ■ 環境制御型ハウスを整備したので、既存ハウスとの比較試験等に活用図る ■ 引き続き有機農業の授業を継続する ■ GGAP審査に向けた学生の準備の充実。より興味を持ってもらえるような授業の実施	B
		資格試験の受験者数と合格率の向上に向けた取り組み ○ 資格・検定試験の必要性を理解させて受験者数のアップと取得意欲の向上を図る。 ○ 合格率向上に向け、学生のレベルに応じた個別指導や繰り返しの事前学習、小テストを実施できたか。	○ 農業簿記検定2級は1名、1回(農経1、2年7名)は合格率14.3%と1名合格し、3級1回(農経1、2年26名)は合格率53.8%と14名合格し、昨年を上回った。2回目では3級2名が受けて合格率100%となった。 ○ 農業技術検定受験2級(農経2年4名)は合格率75%、3級(農経2年2名)は合格率100%であった。2回目では2級2名、3級 3名が合格した。 ○ 毒物劇物取扱者試験は8名合格した。 ○ 大型特殊(農耕車)、フォークリフト、車両系建設機械、けん引(農耕車限定)免許、家畜人工授精師を受験者全員が取得できた。 ○ けん引(農耕車限定)については校内で事前指導を行った。 ○ 農業者として必要な資格であることを認識させるとともに、過去問題の配布や教科書・問題集を利用した勉強時間を設け、合格率向上を図った。 ○ 資格取得の支援については積極的に取り組み、事前講習を行った。	■ 農業簿記及び毒劇物合格率向上のため、意欲向上を図る呼びかけを強化する。	B

評価項目	評価の観点	達成状況		R7評価
		成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践経営者コース2年生の模擬経営実施のための農場や施設等の確保・調整ができたか。 ○ 計画的な作付により、年間通したほ場の有効活用が図られたか。 ○ 1年生は、必要な実習ができたか。また、現地体験実習に必要な基礎的知識、技術を習得させたか。 ○ 定期的な農場運営会議の打ち合わせに基づいて各専攻とも計画的な圃場整備と適期にほ場管理ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践2年生2名は模擬経営中の実績とりまとめを通じて経営分析を行った。 ○ 実践2年生2名は、それぞれが希望する品目で模擬経営)に組み、栽培面及び販売面の課題や問題点を把握し対応策を検討することができた。 ○ 年間計画及び各専攻の計画に基づいてほ場を有効に活用できた。 ○ 1年生については、専攻ごとに計画的に実習を行うことができた。また、現地体験実習までに農業の基本技術(草刈り、ロープ、農具)を習得できた。 ○ 実科研究科では、農業試験場各部で定期的実施させる部会においてほ場管理や学生の実習について検討し、計画的な実施に努めた。 		B
個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生の進路の意向を随時聞き取り、その情報を職員間で共有できたか。 ○ 1年生は11月末を目途に将来の進路を決定し、年度末から活動するよう個別指導できたか。 ○ 2年生は12月末を目途に全員の就農及び就職先等が決定するよう指導できたか。 ○ 雇用就農に向け法人説明会の開催方法の見直しと授業との連携を強化し効果的な説明会の実施により、さらなる学生の就農意欲の向上を図る指導ができたか。 ○ 進路・就農指導等に関し、早い時期から農業農村支援センターや市町村等の関係機関とも情報を共有し連携して対応できたか。 ○ 関係機関と連携し、学生の円滑な就農支援や卒業後のフォローアップに取り組めたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2年生は4月に面談を実施し、進路の最終決定に向けて指導を行った。 ○ 1年生は1月に面談を実施し、進路希望を把握し、春からの説明会等に向けた対応を指導した。 ○ 学生の進路について、教務会議で情報を共有した。 ○ 雇用就農に向け授業と連携を強化した農業法人等合同説明会を開催し、学生の就農意欲の向上を図った。 ○ 農業農村支援センターや市町村等の関係機関とも連携会議を開催し情報共有を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専攻担任などと連携して、随時学生一人一人との接点を増やして適時の指導助言ができるようにする。 	B
社会的規範意識を高め、基本的生活習慣の育成に努める	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年担当者会議等を定期的に行って教授間の情報共有を行い、個別の状況に応じた支援ができたか。 ○ ホームルーム、交通安全・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 ○ 寮生活や自治会活動を通じて社会人としての意識を醸成する指導ができたか。 ○ 各学科ごとの状況に対応した指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月開催する教務会議や随時開催する学年会議で、学生に関する情報を共有した。 ○ 2週間に1回程度でホームルームを開催し、社会規範の徹底、交通安全等を指導した。 ○ 交通安全では、学校内外で事故等があった場合は、その都度安全運転を指導した。 ○ 月1回の自治会役員会を通じて、事業進捗状況と予算の執行について指導助言した。 ○ 新たに在不在ボードを設置し、夜間点呼時にLINEWORKSに画像をアップすることで在寮者の把握性を高めた。 ○ 学生の悪質な行為等に対しては、その都度個人指導と全体指導を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 交通安全について、学校周辺の危険個所、冬場の凍結路等について今後も周知徹底していく。 ■ 規律ある学生生活を送り責任ある社会人となるために機会を捉えて指導を行う 	B
自他の生命・人権を尊重する精神を養い、男女が共に支えあう豊かな心を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 寮生活での活動を通じ、先輩と後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。 ○ 1・2年生共通の実習や寮自治会活動での交流事業等により、各コース間および学年間の交流が図られたか。 ○ 清掃等全員参加で実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 寮の生活指導を通じ、自治組織である自治会の意義と、構成員としての自律した行動についての意識涵養に努めた。 ○ 開催校として4県体育大会の運営を学生中心に行ったほか、農大祭等の行事運営を通じ学年間の交流を深めた。 ○ 清掃の参加率向上を図るため、週2回、時間を授業終了後すぐに行うようにしている(昨年より継続)。 ● 清掃参加しない人が固定化している(継続課題)。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 引き続き自治会において望ましい清掃の在り方(実施時間・方法など)を模索・試行する。 	B

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R7評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学校運営	農業機械や施設機器の充実と適正な管理	農業機械・施設の充実 ○ 農場実習等の農作業に必要な機械と施設の修繕や更新計画表による更新が図れたか。 ○ 圃場管理に支障が出ないよう、十分な準備とメンテナンス、マニュアルや画像による技能の伝承を進められたか。 ○ 導入したスマート農業機器と設備の効率的利用ができたか。 機械の適正な管理 ○ 農業機械、施設及び機器の故障や修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入徹底などにより、適切な管理運営が行われているか。 ○ 農業機械の適切な使用等について職員研修会が早期に実施できたか。 ○ 適切な操作方法を習得させたうえで学生に機械利用させたか。また、複数指導体制を検討できたか。 ○ 修繕可能な機械類を見極め備品の有効活用がされたか。 ○ 使用できない機械の廃棄が行われたか。	○ 最低限の修繕が図れた。 ● 施設資材や部品の計画的な更新が必要。 ● 予定していたスマート農業機械の導入ができなかった。	■ 農業機械、施設を計画的に修繕、更新していく。 ■ スマート農業機器の積極的な導入と活用を図る。	B
	学校用地や施設の適切な維持管理	○ 実習棟、機械庫等は、定期整頓日の設定などにより整理整頓がなされているか。 ○ 定期清掃日の設定などにより、農場以外の学校用地や校舎等施設の維持管理が適切に行われたか。	○ 実習棟、機械庫等、整理整頓を行うとともに、適正に管理している。 ○ 月に1回、定期清掃日を設け、校舎内外の清掃を実施した。		B
	学生募集のPRを更に充実する	○ 学校案内、募集チラシを作成して配布し、県内外で農業大学校への関心を高めることができたか。 ○ サンデー見学会、オープンキャンパスの充実と体験学習を見直し、農業大学校への関心を高めることができたか。 ○ 高校訪問や進路指導担当教諭会議等を通じて農大のPRや情報収集ができたか。また農業高校以外の進路担当教諭にも十分周知できたか。 ○ 農業高校との一層の連携を推進するために、「農大・農高の連携会議」を開催し、農高生の体験入学等を実施できたか。 ○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援の様子を各専攻のブログ等で頻繁に発信できたか。 ○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するとともに、授業や実習等の動画を載せるなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。 ○ 県外での学校PRを積極的に行えたか。	○ 学校案内、募集チラシを県内全高校、県外の実績校等へ配布した。 ○ 学生募集のWeb広告、農業団体機関誌への掲載を実施した。 ○ オープンキャンパス(以下OC)では、学校概要、校内見学、個別相談会を実施。また、体験学習を同日開催とした。 参加者：OC155名、体験学習7名、銀座NAGANO説明会6名 ○ 高校訪問は、県内53校、県外は北陸6校、都内3校で行った。 ○ 高校主催ガイダンス(農業高校12校、普通科高校9校、東京都内高校1校)に参加し農大のPRや情報発信・収集を実施。 ○ 農業魅力発信セミナー(南安曇農業高校、上伊那農業高校、下伊那農業高校)に学生が講師として参加し学校での学習内容を発表。 ○ 農大と農業高校の連携会議を3回開催の他、進路指導担当教諭との情報交換感議を開催。また下高井農林高校1年生(37名)の訪問受入れ。 ○ 実習状況、行事等について、その都度農大ホームページで情報発信。また学生はインスタグラムで情報発信。 ○ 北陸地域の農業高校6校、東京都内農業高校3校の学校訪問を実施。 ○ 長野県農業大学校ふじりんご祭りin銀座NAGANOにおいてプロジェクト学習ポスター展示を実施。 ○ サンデー見学会は、昨年度の1.42倍の参加者(保護者除く)があり(2月8日現在)、県内外の高校生等へPRできた。	■ 農業高校など、個別に高校の訪問を受け入れるなど、大学校のPR、情報発信にさらに取り組んでいく	A
	ホームページの充実を図る	○ 広報委員会を定期的に開催するとともに、HPのあり方や新たな広報手段等が検討されたか。 ○ 学生の自治会活動や実科・研究科の情報のHPへの掲載を支援できたか。 ○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援の様子を各専攻のブログ等で頻繁に発信できたか。(再掲) ○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するとともに、授業や実習等の動画を載せるなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。(再掲)	○ 広報委員会を9月19日、11月20日に開催、広報の実績と今後の取組みについて検討した(12月末までにHPで32回、インスタグラムで49回の情報発信)。 ○ HPには一か月に3～4回「お知らせ」にて学校の様子を掲載した。 ○ 実習状況、行事等について、その都度農大ホームページで情報発信。また、学生はインスタグラムで情報発信した。 ○ 各農業試験場ホームページで実科研究科の情報を掲載し、情報発信した。	■ タイムリーな情報発信を図る。	A
	予算執行の適正化を図る	○ 計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場は専攻別に、管理運営は費目別に執行状況を管理し調整できたか。	○ 教務と事務局で情報交換しながら予算執行に努めた。	■ 予算化できない突発的な修繕等が発生しないよう、計画的に点検、修理更新を進めていく。	B

(2) 実践経営者コース

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R7評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学習指導	授業実習内容を充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生における各論実習の充実と目的意識を持った農業経営体験実習をさせることができたか。 ○ 模擬経営の実践の中で経営分析させることで、経営力の向上ができたか。 ○ 希望する就農形態に合わせて模擬経営と長期農業経営体実習を適正に選択するとともに、就農後予想される課題の把握と対応策が検討できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年の農業経営体験実習について問題意識を再確認させ、実習に対する姿勢の修正を行った。 ○ 学生との個別面談により就農プロセス(営農計画)を指導した。 ○ 農林水産祭実りのフェスティバルにおいて農産物販売に関するマーケティング演習を実施した。 		B
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農支援プログラムに基づき、早めに関係機関や研修先農家と連絡を取りあい就農形態に応じたきめ細かな個別就農支援ができたか。 ○ 職員間の連携により、授業計画、授業管理などのコース運営と就農支援が一体的に実施できたか。 ○ 卒業生との意見交換会を実施し、就農に向けた心構えなどアドバイスをもらう支援ができたか。 ○ 現役農業経営者にアフターフォローを依頼する等、卒業生のフォローアップが充実できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係機関や研修先農家だけでなく、就農地の農業者との連絡調整を行った。 ○ 農業農村支援センターや市町村等の関係機関とも連携会議を開催し、情報共有を図った。 ○ 卒業生との意見交換会を開催し、就農に向けた心構え、準備に関するアドバイスを受けた。 		A
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農に向けた相談会、コース説明会等の通年実施や農業高校への働きかけ等によりコースの内容等をアピールし、効果的な募集活動ができたか。 ○ 独自の募集チラシを作成して関係機関や団体に配布し、募集の周知ができたか。 ○ 市町村やJA等の関係機関、団体と連携を密にし、人材の掘り起こしができたか。 ○ 専用ブログやメディア等様々なPR媒体の活用等により、授業内容や卒業生の営農状況を紹介するなど、効果的なPRができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践卒業生との意見交換会など、インスタグラム等を通じて情報発信した(3回)。 ○ Web広告、高校主催ガイダンス(農業高校12校、普通科高校10校)、就農相談会等への参加により学生募集活動を実施した。 ○ 独自の募集チラシを作成して市町村・農協等関係機関に配布するとともに、農業団体の機関紙へ学生募集を掲載した。 ○ 農業魅力発信セミナー(南安曇農業高校、上伊那農業高校、下伊那農業高校)において学生が学習内容を発表した。 		B

(3) 農業経営コース

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R7評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学習指導	授業実習内容を充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ プロジェクトは、学生の能力に応じて経営管理力を習得させるよう、全学生が経済性の検討を充実するとともに、労働時間の考察や検証が取り入れられたか。 ○ 1年生はプロジェクト活動について、巡回だけではなく2年生との実習時や寮生活での交流により理解を深めることができたか。 ○ ゼミナールによる先進農家視察が実施できたか。 ○ マーケティング手法の習得を目的として、のうだい屋(5回)と農大祭が実施できたか。また、農大祭では、1、2年生間で販売・運営方法の伝承や販売物の確保ができたか。 ○ 現地体験実習について現地機関と連携をし適切な実施ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ プロジェクトでは、経済性(収益性、資材)、労働時間(省力化)について調査を行い、効果を検討している。 ● 栽培方法を比較する研究ではその比較が十分ではないものがある。 ○ プロジェクト中間検討会などを通じて、1年生の意識醸成を図った。 ○ 各専攻ごとに先進的農家を訪問、技術、経営について意見交換をすることができた。 ○ のうだい屋を8月～10月に計4回、農大祭を11月に開催した。2年生から1年生へ計画、準備、実行を伝えることができた。 ○ 現地体験実習の実施にあたり、農業農村支援センターと受入農家選定にあたり樹分協議を行った。また、後期には農家巡回を行い、受入農家とのつながりを深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1年次の計画段階から経済性、労働時間等について検討が必要なことを認識させるとともに、巡回指導時にも指導を行っていく 	B
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農への意識づけに向け、農業経営演習を充実できたか。 ○ 就農支援プログラム等に基づく様々な就農形態に応じた個別、計画的支援ができたか。 ○ 卒業生を就農地の現地機関に確実につなげることができたか。 ○ 農業法人合同説明会等を開催するとともに、インターンシップの実施により就農意欲の向上を図れたか(就農率40%以上)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2年生は4月に面談を実施、1年生は1月に面談を実施した。 ● 進路を決められない学生へのフォローが課題である。 ○ 農業経営者から農業の魅力・経営者としての取組、経営のマネジメント等の修得を図った。 ○ 学生との個別面談により就農プロセス(営農計画)を指導、営農計画策定に向けた指導を実施した。 ○ 農業農村支援センター、市町村、農協との意見交換を実施した。 ○ 農業法人等合同説明会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専攻担任などと連携して、随時学生一人一人との接点を増やして適時の指導助言ができるよう配慮する。 	B
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> ○ サンデー見学会、オープンキャンパスの充実と体験学習を見直し、農業大学校への関心を高めることができたか。(再掲)。 ○ 高校訪問や進路指導担当教諭会議等を通じて農大のPRや情報収集ができたか。また農業高校以外の進路担当教諭にも十分周知できたか(再掲)。志願倍率1.5倍 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上記評価項目「学生募集のPRを更に充実する」記載のとおり。 ○ 上記評価項目「学生募集のPRを更に充実する」記載のとおり。志願倍率は、1.38倍(2月10日現在) 		A